

第34回卒業証書授与式 式辞 (H31.3.1)

日に日に日差しが明るさを増し、新しい春の訪れが感じられる今日の佳き日に、野々市市教育委員会教育長職務代理者 松野 勝夫（まつの かつお）様をはじめ多くのご来賓の方々のご臨席を賜り、本校第三十四回卒業証書授与式を挙げていただけますことは、私たち教職員にとりまして、大きな喜びとするところであり、心より厚くお礼を申し上げます。

また、ご列席いただきました保護者の皆様、今日の喜びと感慨は一人のことと拝察いたします。心からお祝いを申し上げますとともに、お子さまの入学以来、今日まで、本校にお寄せいただきました数々のご支援に対しまして、改めて感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんが本校で過ごした3年間は、自己を確立する上で極めて重要な時期でありました。自分の歩むべき道をしっかりと見極める決断の時であり、それぞれの目標に向かって地道な努力を積み重ねることの大切さを知る期間でもありました。人生を逞しく豊かに生きるための素地を身につける期間を終え、新しい人生に向かって旅立っていく皆さんへのはなむけに、2つの話をします。

1つ目は、「誠実であれ」ということです。

「誠実」とは、「偽りがなく、真面目なこと。真心が感じられる様」ということです。この言葉は、何に対して誠実かという、対象を求める言葉です。その対象の第一は、自分以外のすべての人でなければならないと考えています。つまり、自分以外のすべての他者に対して誠実であってほしいと願っています。

人間は社会を作って生きています。社会とは支え合う仕組みということ。なぜ社会を作っているかという、人間は決して孤立して生きられるように作られてはいないからです。そのため、助け合うということが、人間にとって大きな道徳になっています。

助け合うことは、自分以外の他者を認めることから始まります。詩人である谷川俊太郎は「成人の日に」という詩の中で、こう言っています。「他人のうちに自分と同じ美しさを見とめること、自分のうちに他人と同じ醜さを見とめること、それこそが大人への始まりである」。つまり、他者を認めるとは、自分と他者を同じ土俵に置くということです。そうすれば、自分の尊厳と同様に他者の尊厳も大切にできるようになります。しかし、残念ながらこの感情は本能ではありません。だから、自分で鍛えていく必要があるのです。

他者を認めることができれば、「優しさ」が生まれます。優しさは「他者の痛みを感じる」と言い換えることもできます。この心が育てば、他者の心に寄り添った言動、すなわち、真心を込めた言動が自然にできるようになります。それが誠実ということ。これからは人工知能の進化により、さらに機械化された時代を迎えます。だからこそ、真心という人間にしか持ちえないものの価値が大切になると思います。

誠実に生きていれば、信頼が生まれます。信頼があれば、あなたが困っている人を助けるのと同じように、あなたが困っていれば誰かがあなたを助けてくれます。信頼は築き上げるには難しく、失うには易しいものです。だから、時間をかけて大切に育む必要があります。これからの人生を通して誠実を貫いて信頼される人間であり続けてほしいと願っています。

2つ目は、「希望を見つける力を持つ」ということです。

iPhone を世に出したスティーブ・ジョブズの話をしていきましょう。彼は家のガレージで、共同創業者のウォズニアックとともに20歳でアップルを創業します。それから懸命に働き、会社は10年後に社員数4000人を超えるまでに成長しました。

会社が成長するのに合わせ、一緒に経営できる有能な人材を外部から招きました。最初の1年はうまくいっていたのですが、やがてお互いの将来展望に食い違いが出始め、最終的に決定的な亀裂が生まれてしまいます。取締役会はその人物に味方し、ジョブズは30歳になった時に、自分で立ち上げた会社から、クビを言い渡されます。

人生を賭けて築いたものが、突然、手の中から消えてしまい、彼は落ち込み、1カ月間呆然としていました。このまま逃げ出してしまおうかとさえ思ったといいます。しかし、ゆっくりと何か希望が湧いてきます。自分が打ち込んできたことが、やはり大好きだったのです。辛い出来事があっても、この一点だけは変わりませんでした。会社を追われはしましたが、もう一度挑戦しようという気持ちになります。

その後、ジョブズは NeXT という会社を起業し、ピクサーも立ち上げます。ピクサーは世界初のコンピューターを使ったアニメーション映画「トイ・ストーリー」を製作することになり、今では世界で最も成功したアニメ制作会社になりました。

そして、思いがけないことが起こります。アップルが NeXT を買収し、彼はアップルに舞い戻ることになりました。NeXT で開発した技術はその後、アップルで進むルネッサンスの中核となっていき、やがて、iPhone が誕生します。

ジョブズはこの経験を、このように言っています。「その時は気付かなかったが、アップルから追い出されたことは、人生で最も幸運な出来事でした。会社を発展させるという重圧が、もう一度挑戦者になるという身軽さに変わり、アップルを離れたことで、私は人生で最も創造的な時期を迎えることができたのです」。

人生には、どのような苦難が待ち受けているか分かりません。それでも、絶対に立ち尽くしてはいけません。ジョブズのような世界的成功者でも失意の中から這い上がってきたのです。絶望の淵に立っても、必ず希望はあります。それは皆さんの愛するものの中や大好きなこと、信念を失わず打ち込めることの中にあるのです。

「誠実であること」「希望を見つける力を持つこと」は、どこの世界でも、いつの時代でも、どのような境遇に陥っても、人間が生きていく上で欠かすことのできないことです。

もう一度繰り返しておきます。人間は1人で生きているのではないということ。だから他者を認める必要があるということ、誠実の対象は自分以外の誰でもであること、優しさをもとに真心を尽くすこと。誠実を貫いて信頼を育んでいく、そんな美しい人生を歩んでください。そして、どんな苦境にあっても、天を恨まず人を憎まず、自分の中にある最も大切なものを見つめ、希望を見つけ出そうとする努力を続けられる人間であってほしいと願っています。

皆さんの生きる未来社会はどんな世界なのでしょう。皆さん、皆さんはこれから未来の社会へ心の翼を広げ高々と飛び立たねばなりません。同時に、ずっしりとした逞しい足取りで、大地を踏みしめつつ歩かねばなりません。

私は、皆さんの心の中の最も美しいものを見続けながらこの式辞を書きました。今、読み終えようとして、皆さんの未来が、晴れ渡った青空のようにどこまでも澄み切って見えています。

以上、卒業生三百八名の前途に 幸多きことを心から祈念し、式辞と致します。

平成三十一年三月一日

石川県立野々市明倫高等学校長

中村 義治